

---

# 夢追人たちの足跡～小説マジカルバケーション～

莉紗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢追人たちの足跡〜小説マジカルバケーション〜

### 【Nコード】

N8475Z

### 【作者名】

莉紗

### 【あらすじ】

悲劇の戦争から15年後。国外れの小さな村から、歴史は動き出す。

ミルフィーユは大魔法使いグラン・ドラジェに連れられて、魔法学校ウィルオウイプスへ入学する。ある日、15人のクラスメイトと臨海学校としてヴァレンシア海岸へ。しかし大変なことが起こってしまう…

謎の生き物、飛び交う魔法、次々と明かされる驚愕の事実。

ミルフィーユと15人のクラスメイトの真実を知るための旅が今、  
幕を開けた…

## そのはじまり 1 (前書き)

書いてみたかったマジカルバケーション。なかなかマイナーなゲームでして。

でもすごくお勧めなんです！

よし、頑張って書くぞー！

真実を知る旅が 幕を開けた…

## そのはじまり 1

この世は多くのプレーン、すなわち世界、が重なって出来ている。火のプレーン、水のプレーン、闇のプレーン…。

その一つ、物質のプレーンに存在する魔法王国、コヴォマカ。そこでは人々が自分に合った属性 風、火、古、雷、水、獣、木、音、美、刃、毒、虫、愛、石、闇、光 の魔法を使って生活をしている。ある者は火を、ある者は獣を。

人々の大半は知らなかった。魔法は精霊の力を借りるからこそ成し得る奇跡だということを。

強い力に目が眩んだいわゆる「上級魔法使い」たちは次々と人ならぬもの、「エニグマ」と融合していった。エニグマの操る闇の魔法は、光以外の魔法に対し強い力をもつのだ。しかし人外の力を扱えた人間はほんのわずかで、大半はエニグマに意識を乗っ取られてしまった。人間と融合したエニグマは様々なプレーンを行き来することが出来るようになり、ついにコヴォマカで戦争を起こした。多くの魔法使いや兵士が戦ったが、エニグマの放つ闇魔法は強力だった。多くの命が、儚く消えていった。しかしコヴォマカ国の政府は「魔法の実験が失敗したのだ」と国民に事実を隠した。エニグマの存在を知られてはならなかった。よもやこの世が人ならぬものに征服されてしまうであろう恐怖など。

そんな国に対し怒りに拳を震わせたのは、一人の魔法使いだけであつた…

悲劇の戦争から15年後。国外れの小さな村から、歴史は動き出す。

「またあいつだ。」

「変だよなあ、精霊だって。」

「居るわけ無いのにね。」

子供たちが遠くから見つめるのは15歳の少女。肩まで伸びた金髪はあちこちに跳ね、深い青をたたえた目はキラキラと輝いていた。

「おはよう！みんな。今日もいい朝だね。」

何も無い空間に手を伸ばす少女。

「今日も精霊さんとお喋り？」

「ミルフィーユには精霊さんが見えるんだよねー、すごい。」

子どもたちがキャハハハ、と笑う。ミルフィーユと呼ばれた少女はしょんぼりと地面を見つめた。その目には石の精霊が映っていた。落ちていた木の枝には木の精霊が宿っていた。

ミルフィーユは両親の顔を知らない。物心つく前に叔父の家に預けられたのだ。叔父は男手一つでミルフィーユを育てようとした。しかし彼女が5歳になる前にこの世から去ってしまった。原因は…「魔法実験の失敗」による怪我。何も分からないままミルフィーユはこの世に一人、放り出されたのだ。

「ミルフィーユ。」

叔父は死ぬ直前、彼女を抱きしめながら言った。

「魔法使いになる上で避けては通れない門、それが『エニグマ』だ。しかし彼らを恐れるな。お前には何か特別な力がある。多くの精霊たちの力を借りて生きるのだよ。」

叔父の亡くなった夜、初めて一人で寝た。寒くて暗くて何より不安だった。

そんな時だった。ミルフィーユの手を何かがくすぐった。

「…っ！」

ガバリと跳ね起きる。目の前に居たのはライオンと魚をくつつけたような可愛らしい生き物。水の精霊フロアだった。その日から彼女の眼には精霊たちが見えるようになったのだ。

「そつだよ、みんないるの。魔法はね、精霊さんがいるから存在出来るんだよ。」

どうせ信じてくれない、でもいい。私だけでも、彼らと仲良くして  
いきたい。ミルフィーユはにつこり笑って言った。

「…のわりに、お前魔法使えねーよな。」

「パパやママに教えて貰えばいいのにねー。」

キヤハハ、と子どもたちはまた笑って走って行った。

「お父さんやお母さん、どんな人だったんだろうね。」

ミルフィーユはぼつりと呟いた。フローは優しい眼で彼女を見つめ  
ていた。

## そのはじまり 1（後書き）

いやー、魔法のシステムとかなかなか難しいなあ。ドラクエと違って魔法主だもんね。まあなんとかありますか。うわー！すごい今わくわくしてます。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8475z/>

---

夢追人たちの足跡～小説マジカルバケーション～

2011年12月26日21時05分発行